

令和6年度第2回大分市上下水道事業経営評価委員会議事録（要旨）

● 日 時： 令和6年10月11日（金） 午後9時30分～午前11時40分

● 場 所： 上下水道局5階 大会議室

● 出席者：

【 委 員 】 林勇貴委員、荒金一義委員、秦野真郎委員、
木内純子委員、岩崎美紀委員、福田立枝委員、新垣幸代委員、
谷川真奈美委員（計8名）

【 事務局 】 衛藤上下水道部長、秦総務課参事、産谷経営企画課長、加藤営業課長、
荒金浄水課長、左山水道維持管理課長、泥谷水道整備課長、
木元下水道整備課長、三重野下水道施設管理課長
（経営企画課）首藤参事補、小野参事補、佐藤参事補、長田、横江、上野
（計15名）

● 次 第： (1)開会

(2)議事

令和5年度大分市水道事業・公共下水道事業経営診断書(案)について

【資料】

- ① -1 水道事業 主要指標－中核市比較－
- ① -2 水道事業 経営ビジョンの取組内容評価表(強靱・持続)
- ② -1 公共下水道事業 主要指標－中核市比較－
- ② -2 公共下水道事業 経営ビジョンの取組内容評価表(強靱・持続)
- ③ 水道事業・公共下水道事業 経営ビジョンの取組内容評価表
(安全)

(3)閉会

●議事に係る質疑応答、意見

1 水道事業の主要指標

■ 給水原価の評価内容で物価高騰などの外部要因をあげているが、物価高騰などの要因はどこの中核市も同じ状況であるため、評価を上げて良いのではないか

ご指摘のとおり、物価高騰などの外部要因については全国的な要因です。令和4年度と令和5年度を比較すると中核市平均と同じ2円増であり、前年度の状況を維持できていると判断できることから評価を上げます。

■ 回収率をみると、価格転嫁もできており、純利益も内部留保できていると思われる。物価上昇も気になるところだが、さらに水道料金を下げるということはあるのか

令和5年度決算を受け、令和14年度までの計画期間中は最低限の資産維持費10億円を確保できるという状況ですので、現時点ではこれ以上の値下げは考えていません。

■ 有収水量が下がれば収入も減るため、供給単価は変わらないのではないか

水道料金単価が高い区分の利用者の有収水量が減ると、利用料金の単価が下がるため、水量が減る量以上に供給単価が低くなることがあります。

■ コロナ禍以前と、料金改定後の現在の水量を比較すると有収水量は増えているか

令和元年度と令和5年度を比較しますと、令和元年度は44,705 m^3 、令和5年度は44,644 m^3 となっており、コロナ禍以前の有収水量にはまだ達していません。

2 水道事業の経営ビジョンの取組み項目

- 災害発生時または発生予測が出た際に、ホームページのみではなく報道機関などを使って市民に知らせることができれば良いと思うが、どう考えているか

年3回発行している広報紙やSNSでお知らせしていますが、市民に幅広く情報を届けるために、メディアを活用するなどの新たな取組について検討していきたいと思います。

- 災害時に水はどのように支給されるのか、また医療機関などの重要な施設などの対応はどうしているか

大分市では、市内123箇所の指定避難所及びいこいの道、平和市民公園を災害時の応急給水拠点と定めており、水は給水車で運搬します。また医療機関などの重要給水施設への給水については、優先的に確保できるよう現在も給水施設の耐震化を進めています。

3 公共下水道事業の主要指標

- 下水道使用料に対する企業債の割合について、企業債残高が増加しているのは計画的なものか、またそれに伴い評価も計画的にDとしているのか

大分市は未整備箇所が多く、整備の加速化が求められていることから、企業債残高の増加も許容して整備事業を前倒しで進めてきました。評価に関しては、経営ビジョン策定当初の計画からは外れているという意味合いでDとしています。

- 経営ビジョンの取組評価のなかでは企業債残高を評価しているが、主要指標では企業債残高の割合で評価しているのはなぜか

主要指標は中核市との比較ですが、都市により規模が異なるため、単純に残高のみではなく収入に対する残高の割合で評価を行っています。

- 処理水量には汚水と雨水があると思うが、雨水は外部要因によって数字が変わるため、降雨によって有収率が下がるのはどうしようもないことでは

大分市は分流式を採用していることから、汚水と雨水は別々の処理を行っております。年間処理水量は汚水のことを指していますが、汚水マンホールへの雨水の流入や、地下水の侵入などの不明水の影響により有収率が下がっているという現状です。

4 公共下水道事業の経営ビジョンの取組み項目

- 重点整備地区の南大分や滝尾といった地区の選定はどのような基準で行っているか、また接続要望とはどこからの要望か

都市計画の住宅密度(DID)を基準にしております。接続要望については、その地域で説明会に入り住民に対して説明をしていく中で、アンケートにより要望の多い地区から整備を行います。

5 安全の経営ビジョンの取組み項目

- 有機フッ素化合物(PFAS)がニュースで取り上げられた時に、ホームページなどで知らせたか

ホームページに掲載しお知らせしています。

- 市民意識調査において、満足度平均スコアが5点満点中、水道3.21、下水道3.01となっているが、なぜこのスコアになっているのか

市民意識調査は、大分市が行う全ての事業に対して市民が満足度を5段階で評価するものです。水道事業及び公共下水道事業については水質や工事など様々な観点から評価を受けしており、満足度平均スコアは、大分市の42の施策中、水道事業が1位、下水道事業が5位と高評価です。

■ デザインマンホールを制作したが、その反響などはいかが

カラーのデザインマンホール蓋については、汚水蓋・雨水蓋ともに上下水道局内に展示しており、実際に商店街(ガレリア竹町通商店街)のアーケード内にも設置しています。局内に展示しているマンホール蓋については大分市主催のイベント等でも出張展示を行っており、市民の方から好意的なご意見や大きな反響をいただいています。

■ 施設における消費電力の削減や省エネルギー機器への更新の評価について、外的要因である電力会社の係数によって数値が変動する。外的要因の係数によってその年度の目標に対する評価も変わることによる違和感がある

実際の電力使用量の増減は、水道事業については前年度より減、下水道事業については前年度より微増となっています。係数の増による影響は大きいですが、電力使用量から換算したCO2の排出量を令和元年度比4.9%削減という目標となっています。